

新年を前に、《時間》って？

今年も保護者の皆様、PTA役員の皆様、各自治会の皆様、各団体の皆様、地域の皆様に様々な場面でご支援、ご協力いただきました。ありがとうございました。また、近隣の皆様、温かい目で子どもたちを見ていただき、ありがとうございます。心より御礼申し上げます。おかげさまで「なかの子」の笑顔がたくさん輝いた2学期となりました。

さて、ちょっと前の本ですが、命の授業で有名な聖路加国際病院理事長 日野原重明氏の「十歳のきみへ-九十五歳のわたしから-」に次のような一説があります。《時間はだれでも同じように流れています。でも、その感じ方は人それぞれです。》元日に新しい年をむかえ、大みそかに一年をしめくくる。その時間の長さはだれにでも同じです。(中略) きみがきめられた時間に登校して、みんなといっしょに時間割にそって授業を受けることができるのも、時間のスピードがだれにでも一定であるようにきめられているからです。けれども、同じ四十五分間という長さの授業が、ある授業はあっという間に終わったように感じられ、またある授業はなかなか時間が進まず、たいくつに感じられるということはありませんか？(中略) なにかに熱中しているときには、時間はあっという間に過ぎるものです。時間のことなどすっかり忘れて授業に没頭していると、とつぜん終わりを告げるチャイムが鳴ります。そんな時には、「えーっ、もう終わりなの？」と声をあげたくなりますね。《時間にいのちをふきこめば、その時間が生きてきます。》(中略) 時間というのはただの入れ物にすぎません。そこにきみが何を詰め込むかで、時間の中身、つまり、時間の質がきまります。きみがきみらしく、生き生きと過ごせば、その時間はまるで君にいのちを吹き込まれたように生きてくるのです。

2学期を終えるにあたり、子どもたちには、集中して過ごすか居眠りをしてしまうかその時間の中身をきめているのは自分だということについて考えてほしいと思います。また、私たちは、「えーっ、もう終わりなの？」という授業をもっと増やすために、今一度考えてみたいと思います。

「一年の計は元旦にあり」といいます。新たな気持ちで新しい年を迎えることができるよう、有意義な冬休みをお過ごし下さい。新年も「元気で笑顔のある学校」そして「なかよく かしこく のびのびとがんばる子」のこども像を目指し、教職員一同力を合わせて取り組んで参ります。どうぞよろしく願いいたします。寒さ厳しき折、各ご家庭・地域の皆さま方には、ご健康には十分ご留意され、どうぞ良いお年をお迎えください。

校長 土井 安博